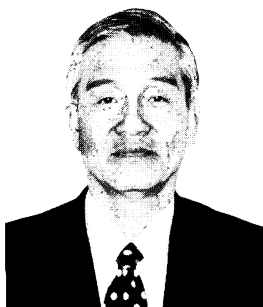


石川県リハビリテーションセンターニュース

2002/7
Vol.12

ご挨拶

「今年度の課題」



所長 島 巖

今年、石川県リハビリテーションセンターにおきまして、2つの課題があります。第1は、今年度より、石川県が地域リハビリテーション支援体制整備事業をスタートさせようとしていることです。これまでも、当センターは、関連職種の研修、テクニカルエイド支援をはじめ、保健福祉センターの要請によりいろいろな形での支援を行ってまいりました。地域リハビリテーションは住民が住み慣れた地域で、安全で生き生きとした生活が送られるよう、医療、保健、福祉及び生活に携わる人々が、リハビリテーションの立場から行う活動の全てをいいます。

支援体制がスタートしますと、これまで以上に、センターは支援体制をうまく機能させるためのがんばりが必要になると考えます。少ない人員では、いろいろな問題がないわけではありませんが、センターの機能の大きな柱として努力したいと考えております。医療、保健、福祉の隙間をなくし、県民の健康増進と必要に応じた生活支援を推進させるため、保健福祉センター、市町村と医療機関、関連機関との連携を深め、県民のリハビリテーションのニーズに対応できるような体制の確立を願っております。

第2はリハビリテーション医療に関してであります。リハビリテーション医療は済生会病院と連携して県民に高度のリハビリテーション医療を提供すべく、スタッフは努力しております。この度の保険点数改正は、リハビリテーション医療にとっては大変厳しいものです。早期から回復期に、必要な人に必要十分なリハビリテーションを提供するため、スタッフの増員と、治療そのものにも工夫が必要ではないかと考えています。

今年度には回復期リハビリテーション病棟を導入する予定であり、病棟に療法士が出向き、より生活に密着した治療を行ないたいと考えております。

我々は、県民のためのリハビリテーションセンターである事を念頭に置き、努力していく所存でありますので、御支援と御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

地域リハビリテーションってなあに！

【地域リハビリテーション活動の歴史】

地域リハビリテーションという言葉が盛んに使われるようになったのは、1983年老人保健法における機能訓練事業が実施されるようになってからです。それ以前は、寝たきり予防活動の一環とした保健師による訪問活動や病院からの訪問サービスなどが挙げられ、それらは地域におけるリハビリテーション活動、地域社会におけるリハビリテーション活動と言われてきました。

【地域リハビリテーションとは】

地域リハビリテーションとは、障害のある人々が

- (1) 自分の住む地域で暮らす権利、
- (2) すなわち健康で快適な生活を楽しむ、
- (3) 教育・社会・文化・経済・政治の面において完全に参加する権利を促進する

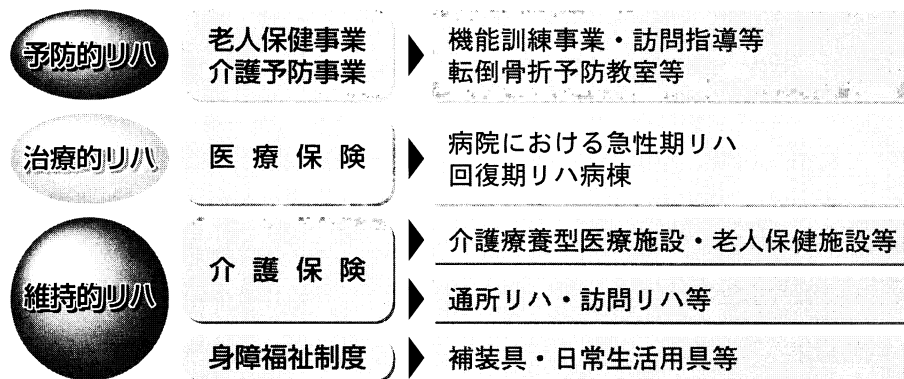
地域におけるリハビリテーションの発展を目指すものである。とされています。

皆さんの地域はどうでしょうか。もし、突然の事故により、下半身マヒとなり車椅子生活を送ることとなった時、前述のような生活が病院退院後、できるでしょうか。

【地域リハに関するサービスにはどのようなものがあるのでしょうか】

地域におけるリハビリテーションサービスには、下図の網掛けの部分が考えられます。

地域におけるリハビリテーションの整理



(石川誠先生講演を参考)

その他、障害のある人々自身の活動（患者会やピアグループなど）、家族による支援、そして地域住民の活動（ボランティア活動など）による支援が挙げられます。

「平成9年度維持期におけるリハビリテーションのあり方に関する検討委員会」より

平成14年度研修事業実施計画

◇本年度の研修予定は、次のとおりです。

◇研修内容等については、対象者の所属機関・施設へ御案内する予定です。

◇その他詳細については、当センターまでお問い合わせ下さい。

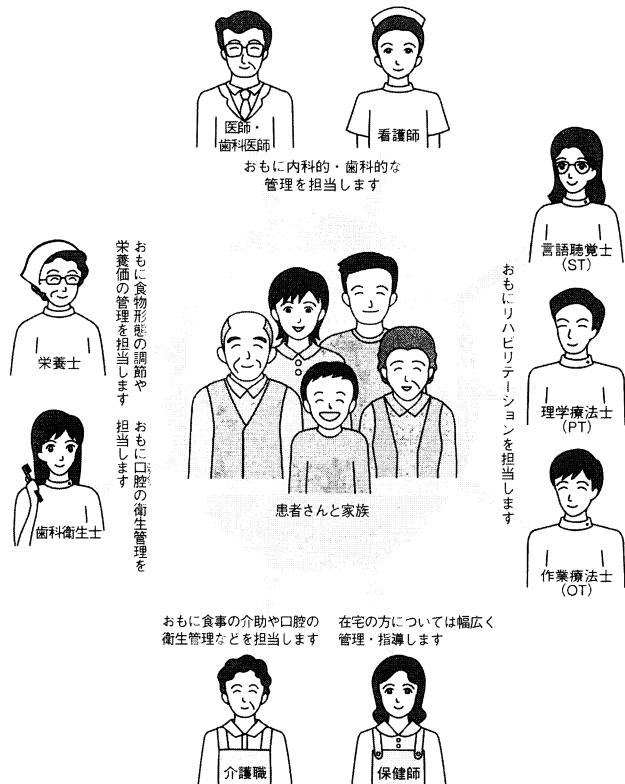
(1) テーマ別研修（摂食・嚥下障害）

目的：高齢者の摂食・嚥下障害をテーマとして、それに関わる各分野のリハビリテーションを学ぶ。

	日 時	テーマ及び講師	対象者
第1回	6月27日(木) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害とは ～嚥下のメカニズム～」 講師 河崎 寛孝（金沢医科大学病院 リハビリテーション科 助手）	高齢者ケア に関わる 関係者等
第2回	7月11日(木) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害におけるリハビリテーション」 講師 白木 幸三（辰口芳珠記念病院リハビリテーションセンター技師長）	
第3回	8月28日(水) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害における看護ケアのポイント」 講師 田中 靖代（ナースィングホーム気の里施設長）	
第4回	9月19日(木) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害における嚥下障害食」 講師 河原美智子（金沢医科大学病院 栄養部栄養課長代理）	
第5回	10月17日(木) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害における摂食時の姿勢と動作・自助具」 講師 織田裕可里（訪問看護ステーションほのぼの 作業療法士）	
第6回	11月14日(木) 午後2:00～4:00	「摂食・嚥下障害における口腔ケア」 講師 綿谷 修一（綿谷歯科医院長）	

※ 但し、参加応募多数のため、申込みについては締め切りました

摂食・^{えんげ}嚥下障害に対する治療・訓練の特徴は、
多数のスタッフがチームを組んで取り組む、
という点にあります。



(2) 専門職研修

目的：リハビリテーションに関わる専門的技術の向上を推進する。

	日 時	テ ー マ 及 び 講 師	対 象 者
第1回	8月3日(土) 午後2:00～4:00	「総合リハビリテーション計画の立案」 講師 石川 誠 (初台リハビリテーション病院理事長)	リハビリテーション 関係者等
第2回	9月14日(土) 午後2:00～5:00	「ソーシャルワーク実践の理論 ～他職種との連携におけるソーシャルワーカーの役割～」 講師 吉田 雅子 (順天堂大学附属順天堂医院 ソーシャルワーカー)	ソーシャル ワーカー等
第3回	10月5日(土) 午後2:00～5:00	「嚥下障害の評価～嚥下造影・嚥下内視鏡～」 講師 太田喜久夫 (松阪中央総合病院 リハビリテーション科医長)	言語聴覚士等
第4回	10月19日(土) 午後2:00～4:00	「肩関節のリハビリテーションの実際」 講師 山口 光圀 (昭和大学附属藤が丘病院 理学療法士)	理学療法士等
第5回	11月9日(土) 午後2:00～4:00	「回復期リハビリテーションの実際 ～身辺動作へのアプローチ～」 講師 中村 茂美 (会田記念病院 作業療法士)	作業療法士等
第6回	11月17日(日) 午前10:00～午後5:00	「整形疾患患者の臨床実習指導／脳卒中片麻痺患者の臨床実習指導 障害者のスポーツ指導と社会参加」 講師 神谷 正弘 (済生会金沢病院 理学療法士) 荒木 茂・北野 義明 (石川県リハビリテーションセンター 理学療法士・リハ工学士)	理学療法士等

(3) 福祉用具適合研修

目的：車いす製作での採型知識と技術の向上を図り、適合力を高めるとともに、障害者等の生活の自立とQOLに向上を促進する。

	日 時	テ ー マ 及 び 講 師	対 象 者
第1回	9月7日(土) 午後2:00～5:00	「車いす適合・製作についての考え方 -Part1 車いすの種類と工夫例-」 講師 寺田 佳世・北野 義明・平木 清善 (石川県リハビリテーションセンター)	リハビリテーション 関係者等
第2回	9月28日(土) 午後2:00～5:00	「車いす適合・製作についての考え方 -Part2 移乗・駆動について-」 講師 寺田 佳世・北野 義明・平木 清善 (石川県リハビリテーションセンター)	リハビリテーション 関係者等
第3回	10月26日(土) 午後2:00～5:00	「車いすの処方の実践」 講師 寺田 佳世・北野 義明・平木 清善 (石川県リハビリテーションセンター)	リハビリテーション 関係者等

(4) 福祉用具の活用研修

目的：福祉用具等の活用について、基本的な考え方や留意点について普及する。

	日 時	テ ー マ 及 び 講 師	対 象 者
第1回～第4回		4 保健福祉センターブロック毎に開催予定	高齢者ケア に関わる 関係者等

(5) 地域リハビリテーション研修

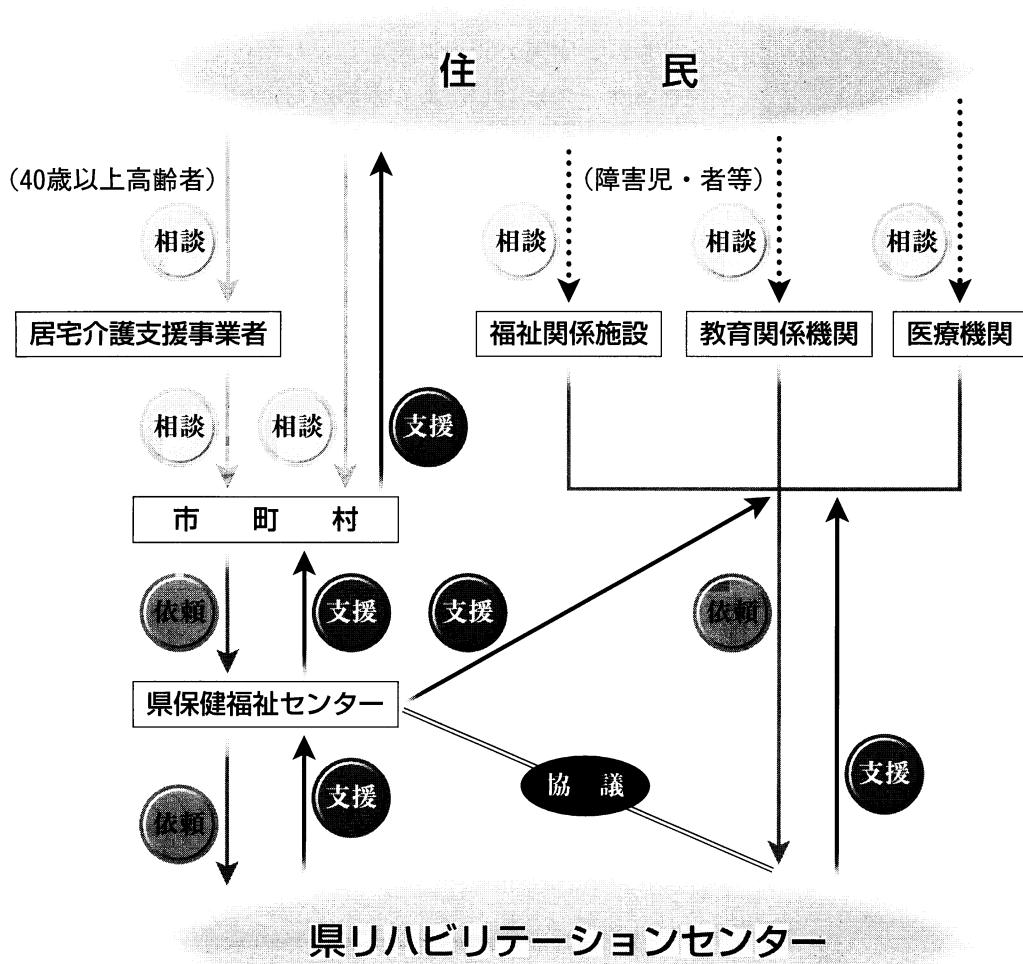
目的：地域リハビリテーションを推進する上において、先進県の取り組みを学ぶ事により、関係機関の地域リハにおける概念の共有化と役割の明確化を図る。

日程：未定

リハビリテーション地域活動支援事業の紹介

目的 保健・福祉・医療の各関係機関からリハビリテーションに関する技術的支援・協力の依頼をリハビリテーションセンターが受け、支援を行う事業です。

- 内容
- 1 全県下のリハビリ関連情報の収集及び提供
 - 2 リハビリテーションに関する個別支援
 - (①基本的動作能力評価・②応用動作能力評価・③日常生活支援方法・④福祉用具・住宅改修等環境調整・⑤ケース検討・関係機関連絡等体制整備等)
 - 3 リハビリテーションに関する事業支援
 - (①事業評価・②事業技術指導・③講師依頼・④調査分析等への支援等)



リクライニングシャワーキャリーの紹介

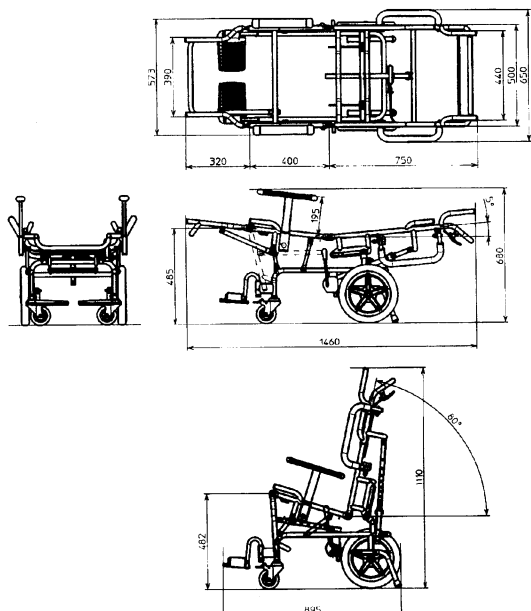
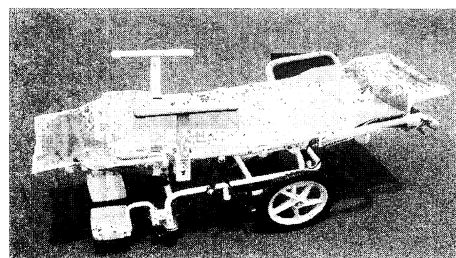
バリアフリー推進工房では、県内の理学療法士、作業療法士、訪問看護婦等の専門職60名にご協力を頂き、障害者や高齢者の身体能力に応じて、どのようなシャワーキャリーが利用されているのかをアンケート調査しました。その結果、重度四肢麻痺等の介助を必要とするケースに対応するシャワーキャリーが少なく、困っていることがわかりました。

この結果をもとに、今回、座位姿勢が不安定で介助を多く必要とする方を対象にしたシャワーキャリーを、入浴用品の製造販売に定評のある株式会社ミクニと共同開発したのでご紹介します。

■特徴



- 安定した洗体姿勢がとれるように、全面をメッシュシートとし、さらに、座面、背もたれ、レッグレストの角度調整機構を付加しました。利用者に乗せたままの状態での調整ができます。
- 洗体時の体位変換が可能な寸法で、住宅や浴室環境面にも対応できるように、座幅を50cmに設定しました。また、側臥位で上肢が利用できるケースに対し、より姿勢が安定し、洗体の介助が楽に行えるように折りたたみ式のハンドルを取り付けました。
- 頭部の安定が図れるフレーム角度を考慮し、さらに、洗髪がしやすいように頭部シートの弛みが調節できます。
- 移乗の介助を考慮し、肘掛けや足置き台の脱着ができます。



サイズ	L 895×W 650×H 1110 (背角度80°時) L 1460×W 650×H 680 (背角度5°時)
重さ	18kgf
座面高さ	482 (背角度80°時) ~ 485 (背角度5°時)
キャスター及び車輪	キャスター 100mmブレーキ付 (ステンレス) 車輪 300mmブレーキ付 (発泡車輪)
フレーム	ステンレスフレーム (焼付け塗装)

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町-13-1
TEL (076) 266-2866 FAX (076) 266-2864
E-mail iprc@po.incl.ne.jp
ホームページは「石川県」版に開設
<http://www.pref.ishikawa.jp/eisei/rihabiri/index.html>

